

「エコ・エアポート基本計画」の目標

2011~2015年度

※1 低騒音型航空機=成田航空騒音インデックスにおいてA~Cの低騒音型航空機として分類される航空機で、低排型、低燃費の航空機
 ※2 GPU使用率=供給機に対しての使用率
 ※3 低公害車=電気、ハイブリッド、天然ガス、燃料電池、メタノール、低燃費・低排出車(ガソリン、ディーゼル)
 ※4 BEMS=空調、電力、熱源など運転状況の監視・管理とエリアごとのエネルギー消費量の計測を一元的に行い、これらの情報を収集して活用することで空調機などの最適な運転方法を実現するシステム
 ※5 空港施設=NAAが管理する空港内外施設
 ※6 サーマルリサイクル発電=廃棄物を燃やした熱を回収して発電すること

地球環境への取り組み

取り組みテーマ	取り組み目標	対象	主体	取り組み項目	基準年度(2010年度)	中期目標(2013年度)	長期目標(2015年度)
地球温暖化対策	航空機、車両、空港施設からのCO ₂ 排出量削減(発着回数1回あたり) エネルギー使用量の削減(発着回数1回あたり) 再生可能エネルギーの有効利用に向けた検討	空港全体	NAA 空港関連事業者(協議会)	NAA及び空港関連事業者が、それぞれ航空機、車両、空港施設において以下の取り組みを実施することで、空港全体のCO ₂ の削減を目指す。	●CO ₂ 排出量4.88tCO ₂ /回	●航空機、車両、空港施設からのCO ₂ 排出量(発着回数1回あたり)を2010年度比3%削減	●航空機、車両、空港施設からのCO ₂ 排出量(発着回数1回あたり)を2010年度比10%削減
		航空機	NAA 各航空会社	①低騒音型航空機の導入促進策(成田航空騒音インデックスに基づく国際線着陸料制度)の継続 ②固定スポットにおける固定動力設備(GPU)の利用促進 ③誘導路整備による航空機地上走行時間の短縮 ④航空会社に対するAPU使用時間の短縮に向けた働きかけ ①低燃費航空機の導入 ②APUの使用抑制と固定動力設備(GPU)の使用	●低騒音型航空機 ^{※1} 導入率81.5% ●GPU使用率 ^{※2} 94.0%	●低騒音型航空機の導入率85% ●ターミナルビル固定スポットにおける地上動力施設(GPU)使用率98%	●低騒音型航空機の導入率90% ●ターミナルビル固定スポットにおける地上動力施設(GPU)使用率100%
		車両	NAA 空港関連事業者(協議会)	①低公害車導入 ②空港内サービス車両の低公害化(バスなど) ③エコドライブの推進 ④公共交通機関の利用促進策の検討・支援 ⑤低公害車での来場促進(電気自動車充電設備の導入等) ⑥燃料電池自動車実証試験への協力等 ①車両更新時の低公害車導入 ②空港内サービス車両の低公害化(バスなど) ③エコドライブの推進 ④天然ガススタンドの運営	●低公害車 ^{※3} 導入率35.8%	●業務用車両のうち低公害車の占める割合を2010年度比3ポイント向上	●業務用車両のうち低公害車の占める割合を2010年度比20ポイント向上
		空港施設	NAA 空港関連事業者(協議会)	①誘導路灯火へのLED灯火設置拡大 ②ターミナルビル等空港内におけるLED照明の導入促進 ③省エネ法に基づくエネルギー管理、設備更新時の省エネルギー機器の導入 ④ターミナルビルにおけるBEMS ^{※4} を活用した省エネルギー対策 ⑤太陽光発電の設置拡大の検討 ⑥事務所における省エネルギー対策の実施(クールビズ・ウォームビズの実施等) ①施設及び設備更新時の省エネルギー施設及び機器の導入 ②事務所における省エネルギー対策の実施(LED照明の導入、照明の点灯時間の短縮など) ③クールビズ・ウォームビズの実施 ④高エネルギー効率の施設運営 ⑤廃棄物のサーマルリサイクル ^{※6} 発電	●誘導路灯火へのLED導入率33.8% ●空港施設 ^{※5} におけるCO ₂ 排出量0.76tCO ₂ /回 ●空港施設におけるエネルギー使用量20.8GJ/回	●誘導路灯火へのLED導入率50% ●空港施設におけるCO ₂ 排出量(発着回数1回あたり)を2010年度比3%削減 ●空港施設におけるエネルギー使用量(発着回数1回あたり)を2010年度比3%削減	●誘導路灯火へのLED導入促進 ●空港施設におけるCO ₂ 排出量(発着回数1回あたり)を2010年度比+2.6%に抑制 ●空港施設におけるエネルギー使用量(発着回数1回あたり)を2010年度比15%削減

周辺環境への取り組み



取り組みテーマ	取り組み目標	対象	主体	取り組み項目	基準年度(2010年度)	中期目標(2013年度)	長期目標(2015年度)
騒音対策	騒防法に基づく区域指定の遵守 低騒音型航空機の導入率向上	航空機	NAA 各航空会社	①航空機騒音のモニタリングと結果の公表 ②低騒音型航空機の導入促進策(成田航空騒音インデックスに基づく国際線着陸料制度)の継続 低騒音型航空機の導入	●成田航空騒音インデックスにおける低騒音型航空機導入率81.5%	●低騒音型航空機導入率85%	●低騒音型航空機導入率90%
大気質保全	大気汚染物質の削減(発着回数1回あたり)	空港全体	NAA 空港関連事業者(協議会)	①航空機、車両、空港施設において大気汚染物質を削減する取り組みを推進 ②空港周辺における大気質のモニタリングと結果の公表 航空機、車両、空港施設において大気汚染物質を削減する取り組みを実施	●NOx排出量20.3kg/回	●航空機、車両、空港施設からのNOxの排出量(発着回数1回あたり)を2010年度比3%削減	●航空機、車両、空港施設からのNOxの排出量(発着回数1回あたり)を2010年度比15%削減
水質保全	雨水排水の水質維持	空港全体 航空機	NAA 各航空会社	空港周辺における水質のモニタリングと結果の公表 防除水剤の適正処理(ディアイシング廃液処理施設、バキュームスqueeパーによる回収処理、排水の一時貯留池(ラグーン)の設置) 防除水剤の適正使用	●雨水排水の水質を維持 ●地下水の水質を維持	●雨水排水の水質維持 ●地下水の水質維持	

「エコ・エアポート基本計画」の目標


2011～2015年度

資源循環への取り組み

※7 協議会=成田国際空港エコ・エアポート推進協議会

取り組みテーマ	取り組み目標	対象	主体	取り組み項目	基準年度(2010年度)	中期目標(2013年度)	長期目標(2015年度)
節水・水循環 	上水の使用量削減 (空港利用者1人あたり)	空港施設	NAA	① 中水利用率の向上 ② 事務所ビルにおける節水対策の実施 ③ 旅客ターミナルビル公共スペースにおける節水対策の実施 ④ 自社が管理しているビル等における節水対策の実施 ⑤ 業務上使用する水の節水対策	● 上水使用量43.2ℓ/人 ● 中水利用率21.2%	● 上水使用量(空港利用者1人あたり)を2010年度比3%削減 ● 中水利用率25%	● 上水使用量(空港利用者1人あたり)を2010年度比10%削減 ● 中水利用率25%
	中水利用率の向上		空港関連事業者(協議会)				
廃棄物3R 	廃棄物排出量の削減 (空港利用者1人あたり)	空港施設	NAA	① 旅客ターミナルビル、貨物地区テナント、NAA事務所等NAAの管理する施設における一般廃棄物排出量の削減及びリサイクル推進 ② NAA事務所における紙のリサイクル推進 ③ グリーン調達拡大 ④ 産業廃棄物のリサイクル	● 一般廃棄物焼却量 0.48kg/人 ● 廃棄物リサイクル率 24.7%	● 一般廃棄物焼却量(空港利用者1人あたり)を2010年比3%削減 ● 廃棄物のリサイクル率を2010年度比3ポイント向上	● 一般廃棄物焼却量(空港利用者1人あたり)を2010年比3%削減 ● 廃棄物のリサイクル率を2010年度比3ポイント向上
	廃棄物のリサイクル率向上	航空機 空港施設	空港関連事業者(協議会)	① 航空機取り下ろしゴミ(機内誌、機内サービスのビン、缶、ペットボトルなど)のリサイクル推進 ② 産業廃棄物(貨物取扱におけるビニールラップや木製スキッド、機内食関連の調理くず等)のリサイクル推進 ③ 紙のリサイクル推進 ④ 事務棟における一般廃棄物排出量の削減及びリサイクル推進			

生物多様性への取り組み

取り組みテーマ	取り組み目標	対象	主体	取り組み項目	基準年度(2010年度)	中期目標(2013年度)	長期目標(2015年度)
自然環境保全 	生物多様性を育む 自然環境保全	NAA緑化施設及び移転跡地	NAA	① 自然環境の状況把握と保全 ② 里山の景観の復元 ③ グリーンポートエコ・アグリパークなどNAA緑化施設の環境保全・啓発活動への積極的な活用 ④ 移転跡地の適正な管理 ⑤ 地域農業の再生への支援	● 生物多様性を育む自然環境の適切な保全と活用の実施		
	空港の拡張時等における自主的な環境影響評価の実施	成田国際空港近接エリア (事業に伴う環境影響予測範囲)	NAA	① 調査結果及び予測評価の公表 ② 必要な環境保全措置の実施			

環境マネジメント

取り組みテーマ	取り組み目標	対象	主体	取り組み項目	基準年度(2010年度)	中期目標(2013年度)	長期目標(2015年度)
環境マネジメント 	成田国際空港全体での環境取り組みを推進するための環境マネジメントの実施	空港全体	NAA	① 空港従業員への情報の発信・共有の活性化(Webサイトの活用など) ② 協議会※7活動の牽引(委員会活動などを通じた環境保全活動の推進) ③ NAAグループにおける環境マネジメント強化のための、推進体制の強化、環境教育・啓発活動の実施	● 成田国際空港全体での環境保全活動の推進と牽引		
			空港関連事業者(協議会)	① 協議会メンバー内の情報共有(Webサイトの活用など) ② 協議会活動への積極的参画(委員会活動などを通じた環境保全活動の推進) ③ 協議会メンバー、空港従業員への環境教育・啓発活動の実施(エコフェスタなど) ④ エコ・エアポート基本計画に基づいた環境保全活動の実施			
	ステークホルダーとのコミュニケーションの実施による環境保全活動の活性化	すべてのステークホルダー (地域コミュニティ、お客様、社会一般)	NAA 空港関連事業者(協議会)	① 環境情報の積極的な公開(Webサイト、環境報告書、冊子、映像、情報コーナーなど) ② コミュニケーションの活性化(環境展への出展、エコキッズクラブ・出張環境教室などの環境学習、地域イベントへの参加) ③ 環境教育、環境啓発活動の実施(及び実施協力)と従業員の積極的参加 ④ 先進的な環境情報発信の推進(ターミナルビル等における環境情報の発信)	● 成田国際空港における環境保全活動の理解・支持の向上		
国内外の空港との連携による環境保全活動の推進	国内外他空港	NAA	① 国内主要空港環境連絡会議を活用した国内他空港との情報交換、連携した環境保全活動の推進 ② ACI活動への積極的な参加 ③ 海外空港との情報交換	● 成田国際空港における環境保全活動の推進 ● 空港・航空業界の環境保全活動を牽引			